

# 鹿沼市新庁舎整備基本計画策定推進会議 第5回会議 議事録

日 時：平成27年3月20日（金）午前10時00分～12時00分

場 所：市民情報センター1階 研修室

出席者：鹿沼市新庁舎整備基本計画策定推進会議委員

1号委員：小川清正、大島久幸

2号委員：鈴木節也、井戸道廣、奈良部実、吉井和夫、塩澤保、大橋廣美、福田弘之、  
福田七右衛門、高山輝雄、大塚美津子、山崎晴美、黒川昌子、岩瀬昭子、松崎清子、  
永田由美子、松島良子、富山亮、藤田玲子、和久井房子、白石修務、金子昭彦、  
野中清吉

3号委員：松山裕

総合アドバイザー：三橋伸夫

（欠席者 関口正一、小太刀昭、木村剛考、荻村真紀、風間教司）

事務局 3名

## 議事内容

### 1. 開 会

- ・事務局による開会、資料の確認
- ・出席状況により過半数（25名の出席）を確認し、委員会成立の報告

### 2. 委員長あいさつ

- ・本日5回目をもって、基本計画策定推進会議は終了となる。これまでのご協力に対し、お礼を申し上げます。新庁舎整備については、市民の関心も高く、まちづくりの重要な課題の一つと認識している。新庁舎では、現庁舎の抱える課題を解決し、効率的な行政運営が行えるよう整備する。また「市民活動の場」をはじめ、「まちの賑わいの場」や「木のまち鹿沼」の鹿沼らしさを新庁舎整備に反映させたいと考えている。  
これまでの防災や経済面における専門的な意見や市民目線の意見などの検討経過を踏まえて、「基本計画(案)」がまとまった。今後も新庁舎整備は長い道のりであるが、計画の具現化に向けて着実に進めていく。皆さんのご協力を宜しくお願いたいと思う。

### 3. 報告事項

#### （1）第4回委員会の議事録について

（事務局より説明）

- ・議事録の確認

（質疑応答）

特に意見無し。

### 4. 議 事

#### （1）現在の進捗状況について

（事務局より説明）・・・『別添資料1』参照

⇒昨年10月以降からの経過内容を説明

- ・ 3/27第8回推進本部会議（兼政策会議）において、基本計画（案）を政策決定。その後、市議会への報告やパブリックコメントを実施するとともに、広報かぬまによる周知など市民に公表しながら、基本計画を決定していく予定。

（質疑応答）

特に意見無し。

## （2）新庁舎整備基本計画（案）について

（事務局からの説明）・・・『別添資料2及び参考資料』参照

- ・ 前回報告した基本計画（素案）から大きな変更点は無し。ページを追って主な内容を説明。

【素案からの主な修正箇所】

- ①P45～56「各階面積の考え方」において、各階フロアのイメージ図を追加し、P57に全体構成図（全体ダイアグラム図）を記載。
- ②P81「整備スケジュール」において、建築コストが高騰している状況での「基本設計」や「実施設計」の作成、「建設工事」の着工は、財政上の大きなリスクを伴うことから、後世に大きな負担を残さないよう財政上のリスクを最大限考慮し、基本構想に位置付けた“整備スケジュール”を見直すこととする。今後は建設工事費の沈静化を的確に見極めて、速やかに設計及び工事に着手すると整理。年次は、状況を見極めて再考する。  
⇒総事業費が60億円の枠内に収まらず、現時点での概算総事業費は約77億円になる。

（質疑応答）

大島委員：ワンストップサービスについて、新庁舎の整備によりハード面での整備はできるが、組織機構改革などのソフト面での整理はどうであるか？

事務局：ハード面だけの整備では、ワンストップサービスの実現は難しいと考える。組織の形態などソフト面も十分に検討する必要がある。P84の今後の課題「行政組織の見直し」において、『市民の目線に立ったわかりやすく、便利な組織などの体制づくりをはじめ、「組織を配置する空間」から「機能を配置する空間」への職員の意識改革も大切である』と整理してある。これからハード面が具体的になるにつれ、ソフト面の整理も平行して進めることになると思う。

大島委員：1～6階までのイメージ図が追記されているが、機械室や受水槽など地下利用の部分もあると思う。これらも追記した方が良いのではないか？

事務局：今後の設計においては、機械室などの配置について地下利用の部分も検討することになると思う。また、免震構造を基本とする考えであり、対応する空間や地下施設が必要となる。あくまで基本計画（案）においては、執務スペースなどの床面積を算定するための資料程度に留めている。

大島委員：計画や設計の作成は、建築コストにあまり影響しないと思う。設計しておけば、現時点では建築単価が高いため工事に着手できないが、もし3年後に建築単価が下落した場合、その設計内容で安く発注できる。基本設計までは行えるのではないか？

来年度に基本設計を行う場合、鹿沼産の間伐材などをGLT（直交集成板）工法の部材として利活用できる状況にないと思う。GLT工法は、検討する構造躯体の中から外しても良いのではないか？

整備スケジュールについて、前回素案の時点ではA～Cの3つのプランがあったが、整備スケジュールを長期に延ばすことはどうかと思う。

事務局：基本設計については、作成後、状況を見ながら時点修正を行えば良いとの考えもあるが、長期に延期する場合、再設計の必要性が考えられる。二重投資にならないよう状況を見極めてから基本設計に着手するべきと考える。また、基本設計の発注には概算で約5千万円程度、実施設計では約8～9千万円程度の金額が必要である。設計における技術開発は2～3年で進歩し、設備関係では1～2年で新しい技術が開発されている。特に維持管理やコストの面で有利なものが出れば、積極的に採用することなども考慮し、設計は1回の発注で完結できるものとしたい。

CLT工法については、前回の会議において総合アドバイザーから、「今後の法整備を含め、実用に向けて約10年程度かかるのでは」との話をいただいた。今後、設計に着手する段階で「構造的に採用できる」タイミングが合えば、コストや強度など考慮したうえで導入を検討してはどうかとの視点である。

整備スケジュールについては、前回会議において3つの整備スケジュールプランを提示した。しかし、現状では今後の建築コストの動向は不明であり、年次計画を明記することは難しい状況にある。プレオリンピック大会があるため、H30年頃にはオリンピック関連の会場建設工事などは完了すると思われる。その頃に建築コストも下降するかもしれないが、確かなことは言えない状況であり、基本計画（案）では年次を記載していない。建築コストについて常に情報を収集し、的確に見極め、速やかに設計などに着手すると整理した。

野中委員：基本設計と実施設計は同時期に行うべきと考える。個人的には延期せず、事業費60億円以内でできる範囲で継続していただきたい。

委員長：できる範囲でとなると、中途半端な庁舎になってしまう可能性がある。

吉井委員：庁舎建替えの検討開始は、現庁舎に耐震性が確保できないことが発端になっているはずである。経済的な理由だけで延期するのはおかしいと思う市民もいる。延期する場合の耐震性の確保について、基本計画（案）に明記することが必要であると思う。

事務局：整備スケジュールの見直しに伴う現庁舎の耐震補強対策について、整理したうえ明記したいと考える。

塩沢委員：合併特例債について、庁舎整備事業を延期した場合は、残りの使用可能額が使いなくなってしまうのか？

事務局：合併特例債は、庁舎整備事業以外でも、旧粟野町との合併時に作成した新市建設計画に記載されている事業であれば使用可能であり、市政全般で考えれば無駄にならない。

白石委員：地下の利用について、以前の説明では免震施設があるため地下利用は考えないとの話があったと思うが？

事務局：免震施設の構造における地下利用の状況を精査する必要があるが、活用できるスペースがあれば機械室程度までは設置可能と考える。

委員長：地下に降りるためのエレベーター設置なども考えられると思う。

白石委員：個人的に鹿沼市と同規模である人口10万人クラスの他市の市庁舎について調べた。その結果、同規模の他市庁舎の床面積には、概ね一律ではなく、広狭の差異が見受けられる。民間の場合、予算が不足するのであれば、事業規模を縮小して着手することが当然に思う。現庁舎規模と同等の規模を目指すような考えの大転換を検討する時期なのではないかと思う。

小川委員：地下空間には、木質バイオマス活用の施設設置なども考えられると思う。

福田委員：鹿沼産材を大量に必要とする場合、財産区から材料を提供してもらうよう準備した方が良い。スムーズな材料確保が可能となると思う。

その他特に意見無し。

⇒新庁舎整備基本計画（案）について、委員一同承認。

5. その他

特に意見なし。

6. 閉 会